

×	横	田	五	七
×	吉	岡	郷	市
吉	田	七	郎	九
吉	田	三	二	四
×	吉	弘	鑑	德
吉	村	太	郎	一
吉	山	信	道	六
米	山	國	藏	一
一	五	〇	六	一
笠	繁	善	二	三
力	九	慈	圓	二
ワ				
×	和	田	傳	五
×	脇	谷	洋	一
渡	部	明	郎	九
渡	邊	斧	人	一
渡	邊	格	司	二
×	渡	邊	又	一
渡	邊	又	次	一
郎				一

第三章

編年沿革略

(調査ノ必要ヲ認メザルモノ、又ハ不可能ノモノハ、年月ノ下必ズシモ日ヲ記サズ。)

高等中學  
校設置

明治十九年十一月三十日

高等中學校ノ設置區域ヲ定メ長崎・福岡・大分・佐賀・熊本・宮崎・鹿児島ノ七縣ヲ第五區ト定メラル

第五區中  
學校位  
決定

明治二十年四月十五日

第五區高等中學校ノ位置ヲ熊本ト定メラル

第五高等  
中學校  
成立

明治二十五年五月三十日

第五高等中學校ト稱セラル

校長任命

明治二十年六月四日

第一高等中學校校長兼高等師範學校幹事野村彦四郎本校校長ニ任ゼラル

假事務所  
設置

明治二十年七月十三日

本校假事務所ヲ熊本區櫻井町十七番地内國通運會社ニ設ク

醫學部設  
置

明治二十年八月二十七日

醫學部ヲ長崎ニ設置セラル

假事務所  
古城移轉

明治二十年十月一日

本校假事務所ヲ熊本區古城町熊本鎮臺所屬舊熊本警察署跡ニ移轉ス

定員決定  
入試開始

明治二十年十月十八日

本校ノ人員ヲ本科豫科六百九十人醫科四百人ト定メラレ本日ヨリ本校部入學試験ヲ施行ス

敷地決定

明治二十年十月二十六日(カ)

本校ノ敷地ヲ飽田郡黒髮村(現熊本市黒髮町)ニ定ム

本校入學  
式舉行

明治二十年十一月十四日

豫科三級二十四名假入學五十七名合計八十一名ニ對シテ入學式ヲ舉行シ引續キ授業ヲ始ム

御眞影下  
賜

明治二十年十二月

天皇皇后兩陛下ノ御眞影ヲ下賜セラル

醫學部長  
任命

明治二十一年三月二十三日

長崎縣醫學校長吉田健康本校教諭醫學部長ヲ命ゼラル

同月商議委員規定ヲ定メラル

醫學部開  
部式舉行

明治二十一年四月二日

醫學部ヲ長崎縣西彼杵郡下長崎村稻荷ヶ嶽長崎醫學校跡ニ開キ九州地方舊各醫學校生徒ニシテ入學ヲ許可シタルモノ三百六十九人ヲ同學部ニ招集シ假リニ開部式ヲ舉行シ同月十日授業ヲ始ム

暫定授業  
料月額

明治二十一年四月十九日

高等中學ノ授業料ハ本科貳拾圓豫科拾五圓ヲ七月八月ヲ除キ毎月分納スベキ規定ナレドモ本校ハ諸機械未ダ

完備セザルヲ以テ本學年限豫科生徒徒ノ授業料ヲ七月八月ヲ除キ一箇月金八拾錢宛徴收スルコトヲ得シメラル

一部二部  
三部ノ規  
程

明治二十一年七月六日

文部省令第四號ヲ以テ本科ノ學科課程ヲ改正シテ高等中學校ノ學科ハ一部二部三部ニ改メ各生徒ヲシテ其ノ一ヲ修メシムルコトトス

校則制定

明治二十一年十二月二十八日

本校規則ヲ制定ス

特待生規  
定

明治二十二年七月三十一日

特待生規程成ル

本校黒髮  
村移轉

明治二十二年七月十三日

舊飽田郡黒髮村本校本館建築竣工ニ付移轉校務取扱ヲ開始シ同月十五日假校舍ヲ返却ス

野村校長  
非職

明治二十二年九月三日

學校長野村彦四郎非職ヲ命ゼラレ西邨貞學校長事務取扱ヲ命ゼラル

補充生ノ  
授業料

明治二十二年十月二日

補充生ノ授業料ハ本學年限一月一圓ヲ徴收スルコトヲ得シメラル

寄宿舎ニ  
寮竣功

明治二十二年十一月

寄宿舎南北二寮竣功ス

休學規定 明治二十二年十二月二十七日

休學規定ヲ制定ス

平山校長 明治二十三年二月十四日 任命

教諭兼教頭西邸貞文部省參事官ニ轉任シ第三高等中學校幹事平山太郎ハ學校長ニ高等師範學校教諭兼幹事櫻井房記ハ教諭兼教頭ニ文部省視學官椿藁一郎ハ幹事ニ任ゼラル

藥學科附設 明治二十三年六月

醫學部ニ藥學科ヲ附設シ人員ヲ百人ト定メラル仍リテ當校ノ定員ハ合計千百九十人トナル

開校式舉行 明治二十三年十月十日

開校式ヲ行フ文部省專門學務局長濱尾新來リテ式ニ臨ム

同月本校ノ官制ヲ改正シ職員ハ學校長教授助教幹事舍監書記トシ各定員ヲ定メラル從前ノ教諭ハ教授ニ助教諭ハ助教授ニ任ゼラレ又元醫學部長ハ醫學部主事ヲ命ゼラル

勅語謄本 明治二十四年一月十六日 下付

勅語謄本ヲ下附セラル

御宸署ノ勅語下賜 明治二十四年一月二十二日

平山校長曩ニ下賜セラレタル教育ニ關スル御宸署ノ 勅語ヲ奉持シテ歸着ス

官舎竣功 明治二十四年五月六日

官舎竣功ニ付芳川文部大臣ヨリ學校宛該官舎ヘ居住スベキ旨命令アリ

平山校長 明治二十四年六月八日 卒去

學校長平山太郎卒去ス教授櫻井房記學校長心得ヲ命ゼラル、同月幹事ヲ廢シ舍監ヲ置カル

嘉納校長 明治二十四年八月十三日 任命

文部省參事官嘉納治五郎學校長兼文部省參事官ニ任ゼラル

同月本校ノ官制ヲ改メ職員ハ學校長教授助教書記トシ舍監ヲ置クノ必要アルトキハ教官ヨリ兼任セシムルコトヲ定メラル

醫學部新築落成 明治二十四年九月

醫學部校舍新築成ルヲ以テ此ニ移轉シ在來ノ醫學部ヲ以テ分教場ト定メ四年生ノ教授所トナス

龍南會發會式舉行 明治二十四年十一月三日

龍南會發會式ヲ舉行ス

醫學部開校式

明治二十五年三月七日

醫學部開校式ヲ行フ文部次官辻新次來リ臨ム

本校第一卒格式 明治二十五年七月十日

本校第一回卒業式ヲ舉行ス

授業料規  
程更正

明治二十五年九月

本校授業料規程ヲ更正シテ全額拾五圓ヲ三學期ニ分納セシムルコトトシ之ニ醫學部進級及卒業試問規程ヲ加ヘ從來ノ醫學部規則ヲ廢シテ本校及醫學部ノ諸規程ヲ統一ス

補充二級  
募集停止

本年ヨリ豫科補充第二級生ノ募集ヲ止ム

記念日制  
定

明治二十五年十月

自今毎年本校ハ十月十日醫學部ハ四月十日ヲ以テ記念日ト定ム

有栖川宮  
殿下台臨

明治二十五年十一月二十一日

有栖川宮威仁親王殿下台臨アラセラル

中川校長  
任命

明治二十六年一月二十五日

學校長嘉納治五郎文部省參事官ニ轉任シ第四高等中學校長中川元本校校長ニ任ゼラル

北白川宮  
殿下台臨

明治二十六年四月二十六日

北白川宮能久親王殿下台臨アラセラル

農科新設

明治二十六年八月二十四日

勅令第八十七號ヲ以テ本校ノ職員ハ校長一人教授二十五人助教授十五人書記十人ト定メラル

同月本科第二部學科中ヘ農科志望者ニ課スル學科課程ヲ加ヘ本學年ヨリ施行ス

補充生入  
學停止

明治二十六年九月

本年ヨリ豫科補充生ノ入學ヲ停メ豫科第三級以上ノ生徒ヲ募集スルコトトセリ

職員制服

明治二十六年十一月

文部省ノ允裁ヲ經テ本校職員ノ服制ヲ定ム

此年雨天體操場ノ板敷工事ヲ竣ヘ講堂ノ觀ヲ呈スルニ至レリ

大婚奉祝

明治二十七年三月九日

明治天皇大婚二十五年奉祝式竝ニ提灯行列ヲ舉行ス

受験料徴  
收開始

明治二十七年四月

本校本科豫科ノ入學試驗料金壹圓ヲ徴收スルコトニ定メラル

明治二十七年九月

第五高等  
學校ト改  
稱

六月二十三日ノ勅令第七十五號ヲ以テ本月十一日ヨリ第五等學校ト改稱セラレ文部省令第十五號ヲ以テ本校

ニハ醫學部及大學豫科ヲ設置シテ第三部學科ヲ加ヘラル

明治二十八年五月

規則中ニ醫學部卒業生ハ得業士ト稱スルコトヲ得ルノ一條ヲ追加ス

舊豫科三  
級廢止

明治二十八年七月

舊豫科三級ヲ廢セラル

設置區域  
撤廢

明治二十九年六月

明治三十年四月以降大學豫科へ生徒ヲ入學セシムルニハ高等中學校設置區域ニ依ラザル儀ト心得ベキ旨訓令セラル

舊豫科全廢

明治二十九年七月

舊豫科ヲ全廢セラル

明治二十九年十二月

動物及植物學教室附屬家一棟新築ス

工學部設置

明治三十年四月十七日

文部省令第三號ヲ以テ本校ニ工學部ヲ設置セラレ同年七月十七日教授工學部櫻井房記主事ヲ命ゼラル

明治三十年九月

醫學部主事吉田健康卒去シ教授大谷周庵醫學部主事ヲ命ゼラル

事務所工學部生徒控所各一棟ヲ新築ス

小松宮殿下御臨校

明治三十年十一月四日

小松宮彰仁親王殿下御臨校アラセラル

明治三十一年二月

大谷周庵醫學部主事ヲ免ゼラレ教授村上安藏同主事ヲ命ゼラル

明治三十一年八月

工學部理化學實驗室二棟ヲ新築ス

明治三十一年九月

工學部教室實驗工場各一棟ヲ新築ス

明治三十二年八月

教授村上安藏醫學部主事ヲ免ゼラレ教授田代正同主事ヲ命ゼラル

明治三十三年三月

寄宿舍新寮同附屬病室物理學教室附屬家各一棟ヲ新築ス

一部甲乙  
明治三十三年四月

本校規則中大學豫科第一部學科課程表ヲ改正シテ法科ハ英語ヲ以テ修ムル者ヲ甲種トシ獨語ヲ以テ修ムル者ヲ乙種トス

學校長中川元第三高等學校長ニ轉ジ教授櫻井房記本校校長ニ任ゼラル

明治三十三年五月十四日

皇太子殿下（大正天皇）御成婚奉祝式竝ニ運動會ヲ舉行ス

明治三十八年八月

大學豫科ノ學科規定ヲ改正セラル

明治三十三年九月

宣誓式舉行

宣誓式ヲ舉行シ禁酒ヲ勵行ス

明治三十三年十二月

工學部實驗工場附屬家一棟ヲ新築ス

明治三十四年三月二十日

教授神谷豐太郎工學部主事ヲ命ゼラル

明治三十四年四月一日

醫學部分立

本校醫學部ヲ分立シテ長崎醫學專門學校ト改稱セラレ尋デ本校職員ノ定員ヲ改正セラル

明治三十四年四月

大學豫科入學志願者ハ中學卒業後經過ノ年數ニ制限ヲ置カザルコトニ定メラル

明治三十四年五月二日

第一皇孫殿下（今上陛下）御降誕ニ付花岡山ニ於テ奉祝遙拜ヲナス

今上陛下  
御降誕奉  
祝

明治三十五年四月

入試規定  
各校配當

文部省令第十號ヲ以テ明治三十三年文部省令第十三號大學豫科學科規程中第三部ノ藥學科ヲ第二部ノ學科中ニ移サル

文部省告示第八十二號ヲ以テ高等學校大學豫科入學試驗規程ヲ定メラル隨ツテ入學試驗ハ本年ヨリ文部省ニ於テ各高等學校ヲ通ジテ之行ヒ各高等學校ニ配當スルコトナレリ

明治三十五年十一月十三日

小松宮彰  
仁親王殿下  
御差遣

小松宮彰仁親王殿下ヲ本校ヘ差遣ハサル

同月商議委員規定ヲ廢止セラル

寮内電燈

明治三十六年五月

寄宿舎内ニ於テ始メテ電燈ヲ點ズ

明治三十六年九月九日

教授神谷豐太郎工學部主事ヲ免ゼラル

生徒監

明治三十六年十二月

勅令第二百三十號ヲ以テ舍監ヲ生徒監ト改稱セラル

授業料増額

明治三十八年二月

本校規則中大學豫科授業料一學年金貳拾五圓ヲ參拾圓ニ増額シ寄宿料一學年金七圓ヲ徴收ノ條ヲ追加ス

工學部分立

明治三十九年三月二十九日

本校工學部ヲ分立シテ熊本高等工業學校ト改稱セラレ尋デ本校職員ノ定員ヲ改正セラル

明治三十九年六月

元工學部校舎ヲ熊本高等工業學校ニ引渡ス

評議員會規程竝ニ教授會規程ヲ定ム

明治四十年一月十六日

松浦校長  
任命

學校長櫻井房記依願本官ヲ免ゼラレ山口高等商業學校教授松浦貢三郎本校校長兼教授ニ任ゼラル

明治四十年三月

擔任教官  
規程

擔任教官規程ヲ定ム

明治四十年六月

教授ノ次ニ生徒監ヲ加ヘ教官ハ生徒ノ教育ヲ掌リ生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ掌ルコトナル

本校職員定員中教授二十五人ヲ二十七人ニ助教授六人ヲ七人ニ改正セラレ教授ノ次ニ生徒監ヲ加ヘ奏任教官

ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補シ教官ハ生徒ノ教育ヲ掌リ生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ掌ルコトナル

宣誓停止

明治四十年八月

本校規則第四章中新入學生徒ノ宣誓ニ係ル條ヲ削除ス

明治四十年九月

文科（一）  
部乙）新設

本學年ヨリ第一部乙種（文科）一組（生徒四十五人）増加セラル

明治四十年十月

新教室一棟ヲ新築ス

明治四十一年三月

入試校別  
施行

文部省告示第七十八號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ヲ廢止セラル隨ツテ選拔試驗ハ本年ヨリ

各高等學校別ニ之ヲ行フコトナレリ

本校職員定員中教授二十七人ヲ三十人ニ改正セラル

明治四十一年十一月

詔書謄本  
下付

文部省ヨリ十月三十日下シ賜ヒタル詔書ノ謄本ヲ下付セラル

明治四十一年十二月

發動機室寄宿舍集會室各一棟ヲ新築ス

明治四十二年四月

本校職員定員中教授三十人ヲ三十三人ニ助教授七人ヲ八人ニ改正セラル

明治四十二年八月

銃器庫一棟ヲ新築ス

明治四十二年九月

工科（二）  
部甲）新設

本學年ヨリ第二部甲種（工科）一組（生徒四十二人）ヲ増加セラル

新教室ヲ二階建ニ改築及増築ス

明治四十三年三月

勅令第六十七號ヲ以テ本校職員定員中助教授八人ヲ三人ニ改正セラル

無試驗檢  
定改正

明治四十三年五月

文部省令第十一號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試驗無試驗檢定規定ヲ改メラル

明治四十三年九月

生徒控所一棟ヲ移築ス

明治四十三年十月

圖書教室一棟ヲ新築ス

明治四十四年三月

本校職員定員中教授三十三人ヲ三十五人ニ助教教授三人ヲ四人ニ改正セラル

明治四十四年五月

授業料増額

本校規則中授業料一學年金參拾圓ヲ參拾五圓ニ増額シ其分納額ヲ改正ス

明治四十四年九月

化學實驗室一棟ヲ新築ス

明治四十五年五月

本校職員定員中教授三十五人ヲ三十六人ニ改正セラル

大正元年九月十三日

御大葬遙拜

明治天皇御大葬ニ付遙拜式ヲ舉行ス

御陵參拜

大正元年十月十二日

往復一週間ノ豫定ヲ以テ桃山御陵參拜修學旅行ノ途ニ就ク

大正二年二月

慰靈祭舉行

寄宿舎内ニチブス患者續出シ四月十四日死亡者ノ爲ニ校庭ニ於テ慰靈祭ヲ行フ

大正二年六月

本校規則中入學料金壹圓ヲ參圓ニ改ム勅令第百八十三號ヲ以テ本校職員定員中教授三十六人ヲ三十五人ニ改正セラル

大正二年八月

本校規則第三章休業日中神嘗祭ノ次ニ天長節祝日ノ一項ヲ追加ス

大正二年十月二十三日

吉岡校長任命

學校長兼教授松浦寅三郎依願本官兼官ヲ免ゼラレ文部省督學官吉岡郷甫本校校長兼教授ニ任ゼラル

學寮閉鎖

大正二年十一月

寄宿内ニバラチブス、赤痢相次イデ發生シ(十二月)遂ニ學寮ヲ解散閉鎖ス

本校規則第五章中ニ明治三十四年ヨリ同三十八年ニ至ル間ニ於ケル本校元工學部卒業者ハ第五高等學校工學

士ト稱スルコトヲ得ルノ一條ヲ追加ス

大正三年六月

勅令第百二十四號ヲ以テ文部省直轄學校ノ名譽教授ニ關スル件ヲ公布セラル



監督教官  
規程

大正三年九月

監督教官規程ヲ改正ス

大正四年九月

寄宿舎北寮ヲ移築及改築ス

御眞影下  
賜

大正四年十月二十七日

御下賜アラセラレタル天皇陛下ノ御眞影奉戴式ヲ舉行ス

大正四年十月

生徒集會室一棟ヲ移築ス

御即位禮  
奉祝式舉  
行

大正四年十一月十日

大正天皇御即位奉祝式ヲ舉行ス（提灯行列ハ十六日）、同月三十日より一週間ノ豫定ヲ以テ職員生徒一同御即位場所ノ拜觀修學旅行ノ途ニ就ク

御跡拜觀

大正四年十二月二十七日

御沙汰書  
謄本下付

同日教育ニ關スル御沙汰書ノ謄本ヲ下付セラル

大正四年十二月

御眞影奉  
安所竣成

本校職員定員中教授三十五人ヲ三十七人ニ改正セラル

大正五年六月

御眞影奉安所竣成ス（職員生徒寄附）

大正五年八月

宿舍舎南寮ヲ移築及改築ス

大正五年十月二十一日

皇后陛下  
下賜御眞影

皇后陛下皇太子殿下ノ御眞影ヲ下賜セラル

大正五年十一月三日

立太子禮  
奉祝式舉  
行

立太子禮奉祝式竝ニ提灯行列ヲ舉行ス

大正六年三月

狹窄射擊  
教授開始

書庫及體操教官室各一棟ヲ新築ス

校内ニ狹窄射擊場ヲ設ケ狹窄射擊場ノ教授ヲ始ム

入試各校  
共通施行

大正六年四月

文部省令第四號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選抜試驗規程ヲ改正セラル随ツテ選抜試驗ハ本年ヨリ各高等學校ヲ通ジテ之ヲ行フコトナレリ

大正六年五月

實包射擊  
教授開始

陸軍ノ射擊場ヲ借用シテ實包射擊ノ教授ヲ始ム

大正七年十一月

事務所ヲ改築ス

高等學校  
令改正

大正七年十二月五日

勅令第三百八十九號ヲ以テ高等學校令ヲ改正シ大正八年四月一日ヨリ施行セラル

大正八年三月二十九日

文部省令第八號ヲ以テ高等學校規程ヲ定メ高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ヲ廢止セラル

大正八年四月

選拔試驗ハ本年ヨリ各高等學校別ニ同時ニ之ヲ行フコトナレリ

大正九年三月三十一日

皇太子殿  
下台臨

皇太子殿下台臨アラセラル

大正九年八月

勅令第三百三十九號ヲ以テ本校職員定員中教授三十七人ヲ三十九人ニ改正セラル

授業料増  
額

大正九年九月

本校學則中授業料一學年金參拾五圓ヲ四拾圓ニ増額シ其ノ分納額ヲ改正ス

大正九年十月十日

三十年記  
念式舉行

開校第三十週年記念式ヲ舉行ス文部大臣代理關屋書記官之ニ臨ム

大正九年十月三十日

教育勅語  
記念式舉行

教育勅語煥發第三十週年記念式ヲ舉行ス

大正九年十一月一日

體操場ニ於テ明治神宮鎮座祭遙拜式ヲ執行ス

大正九年十一月

植物及動物鑛物及地質學教室一棟ヲ新築シ元ノ動物及植物學教室一部ヲ取毀シ地質及鑛物學教室一棟ヲ物置

ニ改造ス

高等學校高等科ニ學力檢定規程ヲ定メ大學豫科學力檢定規程ヲ廢セラル

大正十年四月

體操場（武夫原）ニ於テ新設グラウンド開大會ヲ舉行ス

本年度ヨリ告別式ヲ三月ニ入學式ヲ四月ニ夫々變更セラル

大正十年五月

本校職員定員中教授三十九人ヲ四十人ニ助教教授四人ヲ五人ニ改正セラル

大正十年六月一日

黑髮村熊  
本市ニ併  
合セラル

本校ノ敷地熊本市ノ一部トナル

大正十年十一月九日

溝淵校長  
任命

學校長兼教授吉岡郷甫浦和高等學校長ニ轉任シ第四高等學校長溝淵進馬本校校長ニ任ゼラル

大正十年十二月

物理及化學實驗室各一棟ヲ新築ス

授業料増  
額

大正十一年四月

本校學則中授業料一學年金四拾圓ヲ五拾圓ニ増額シ其ノ分納額ヲ改正ス

大正十一年十月 日

學制頒布五十年記念式ヲ舉行ス

大正十二年四月

本館教室ト寄宿舎トノ渡廊下及宿舍附屬病室ノ改築ヲナス

大正十三年七月

學年教員會規程竝ニ學科目教員會規程ヲ定ム

大正十四年三月

本校學則中授業料一學年金五拾圓ヲ六十五圓ニ増額シ其ノ分納額ヲ改正ス

道場新築

柔道劍道道場新築成ル

大正十五年四月

第十三臨時教員養所ヲ本校ニ設ケ數學科ヲ置カル

大正十五年十月二十二日

長慶天皇ヲ皇統譜第九十八代ニ奉列御申告ニ付臨時休業ヲ爲ス

昭和元年十二月二十五日

大正天皇崩御ニ付奉悼式ヲ舉行ス

昭和二年二月一日

大正天皇御大葬ニ付遙拜式ヲ舉行ス

昭和三年四月

第十三臨時教員養成所ニ國語漢文科ヲ増置セラル

昭和三年八月

熊本市ヨリ本校構内ヘ水泳場ヲ築造シ本校ニ寄附ス

昭和三年十月九日

天皇皇后兩陛下ノ御眞影ヲ下賜セラル

生徒主事

昭和三年十月三十日

前日勅令第二百五十六號ヲ以テ設置セラレタル生徒主事同主事補ノ任命アリ

昭和三年十一月十日

今上陛下  
御即位禮  
奉祝式舉  
行

今上陛下御即位ノ大禮ヲ舉ゲサセラル、ニ付奉祝式竝ニ提灯行列ヲ舉行ス

昭和三年十二月

教育ニ關スル御沙汰書ヲ御下賜アラセラル

昭和四年三月

授業料増額

本校學則中授業料一學年金六拾五圓ヲ八拾圓ニ増額シ其ノ分納額ヲ改正ス

昭和四年四月

規定ヲ設ケテ本年度新入生ヨリ第二保證人ヲ教授中ニ就イテ依頼セシム

昭和四年五月

御大禮紀念館竣工ス（職員生徒寄附）

講堂新築

昭和四年八月

圖書教室竝ニ新教室ノ二棟ヲ東方ニ移轉シ其ノ跡ニ講堂ヲ新築昭和五年三月末日ヲ以テ竣工ス

昭和四年十月二日

神宮式年遷宮祭ニ付授業ハ休止シ午後六時ヨリ雨天體操場ニ於テ遙拜式舉行、同月五日特別奉拜者ハ學校長溝淵進馬職員總代生徒引率者小島伊佐美生徒總代白水忠雄第十三臨時教員養成所生徒引率者八波則吉同生徒總代清田耕一郎ナリ

昭和五年十一月

銃器庫増築工事ニ着手同年十二月落成ス

昭和六年一月十日

武藤校長任命

學校長溝淵進馬第三高等學校長ニ轉任シ第四學校長武藤虎太本校校長ニ任命セラル

昭和六年二月 日

前ニ御貸下ゲノ 天皇陛下皇后陛下御眞影ヲ奉還シ新ニ下賜セラル

昭和六年十一月十五日

天皇陛下行幸

天皇陛下本校ニ行幸アラセラル

昭和七年三月

第十三臨時教員養成所廢止セラル

昭和七年三月三十一日

十時校長任命

學校長武藤虎太依願本官ヲ免ゼラレ廣島高等學校長十時彌本校校長ニ任ゼラル

昭和七年五月

學寮會ノ寄附ニ係ル本校寄宿舎構内ノ仰光館（行幸記念）新築成ル

昭和七年十二月

勅令第三百九十五號ヲ以テ本校職員定員中助教授五人ヲ四人ニ改正シ助手一人ヲ減員セラル

昭和八年三月

特待生規程廢止

特待生規程ヲ廢ス

御眞影奉  
安所奉遷

昭和十年四月十六日

梨本元帥宮殿下帶山練兵場ニ於テ御親閲ヲ賜フ

昭和十一年四月二十七日

客月ヨリ工事中ノ御眞影奉安所改築竣工ニ付熊本高等工業學校奉安殿ニ安置セル御聖影ヲ奉遷ス

昭和十一年五月

寄宿舎食堂一部改築成ル

昭和十一年九月

寄宿舎食堂一部ノ移築ニヨリテ第二生徒控所成ル

昭和十一年十一月

寄宿舎食堂全ク成ル

昭和十二年四月

在寮生集會所成ル知命堂ト稱ス

生徒集會所改築成ル終諧堂ト稱ス

昭和十二年九月

開校五十年記念會館新築竣功ス

昭和十二年十月十日

開校五十年記念式典ヲ舉行ス文部大臣代理文部省專門學務局長男爵山川健來リ臨ム

五十年記  
念式舉行

記念會館  
新築

## 結 語

不器的人  
材教育の  
必要

高等學校は、本邦教育制度に於て、特殊的な、一種微妙の教育機關である。即ち、殆ど實際生活と懸絶せるかの如き觀ある二十歳前後の、最も意氣旺盛にして、又最も感受性に富める青年子弟は、古人の所謂斐然として章を成せども、之を裁つ所以を知らざるものではあるまいか。故に若し彼等に裁つ所以を知らしめたならば、彼等は各自の力に依つて、如何に見事なものに仕立てることであらう。而も時代は移り、風俗は易る。故に又、時俗に適應する方法を會得せしめて置かなければならぬ。是に於てか不器的人材教育の必要が起つて來る。然らば則ち身を教職に置ける吾等は、果して常に正しき方法を教へてゐるのだらうか。而してその方法たる、飽くまでも能動自發的ならしむべく、斷じて受動嫌忌的ならしむべきでないことは勿論である。

本來の使  
命の遂行

高等學校本來の使命は、森子の言の如く、「社會上流に立つべき人物正確に學術精練の士を多く養成すること」でなければならぬ。而してこの重大なる使命は、過去五十年の實績に徴して、大體に於てその方向を誤ることなく遂行せられて來たものと謂ふべきであらう。本校の卒業生のみにも、附録に示す通り、醫學部・工學部・臨時教養員成所を除き、既に一萬に垂んとし、全國新古二十有餘校の卒業生は、恐らく十五萬に近かるべく、その中の大多數が、進んで大學の課程了へて、社會の上流に立ち、學術の研鑽に努め、國家有爲の人物として、文運の振展に貢獻し來つたことは、餘りに明白である。

時代の趨  
勢と本校  
校風の變  
遷

本校五十年の歴史には、新興の意氣と、守成の努力と、敗類の傾向と、爛熟の弊風と、挽回の動向とがあつた